

## 感性情報科学への誘い

感性情報科学とは、感性すなわち人の感じる「気分」を数値で客観的に取り扱おうとする学問分野です。また、感性工学は、感性と商品のデザインなどの関係を表すルールを見つけて、感性に訴える商品デザインなどを実現しようとするものです。感性は、当然ながら人によってさまざまであり、このようなばらばらの数値同士を結びつけるのが統計学です。今回の講義では、本研究室のある年の卒論をもとに、感性工学の考え方とそのために用いる統計学について概説します。

### 感性情報科学と感性工学

感性情報科学とは、感性、すなわちある対象に対して人の感じる「気分」を数値の形で客観的に取り扱おうとする学問分野です。また、感性工学は、感性と商品のデザインなどの関係を表すルールを見つけて、感性に訴える商品デザインなどを実現しようとするものです。感性は、当然ながら人によってさまざまであり、このようなばらばらの数値同士を結びつけるのが統計学です。

図1は、感性工学の考え方を図で示したものです。例えば、礼服のように「フォーマル」な印象を受ける布を作りたい、という需要があるとしましょう。しかし、どのように見える布ならば「フォーマル」に見えるのかがわかりません。そこで、いろいろな布を用意して、被験者に「どのくらいフォーマルだと感じるか」をアンケート調査します。これを官能評価といいます。一方、布の見え方について客観的な測定をするために、画像処理の手法を使って色合いや細かさ（空間周波数）などを測定します。そして、これらの「感性的数値」と「客観的な数値」の間を結びつけるルールを統計的手法によって見つけ、「客観的な測定の結果がどんな布であれば、フォーマルであるという印象を受けるのか」を記述します。このような「関係を見つける統計的手法」は多変量解析とよばれています。このルールがわかれば、そのような客観的な測定結果が得られるような布を作ることで、感性的な需要をみだすことができます。

### 参考ウェブサイト

浅野晃の公的ウェブサイト(<http://kuva.mis.hiroshima-u.ac.jp/~asano/>)

2004年前期の講義・行動科学「感性情報科学への誘い」(講義中スクリーンで示した資料が載っています)  
(<http://kuva.mis.hiroshima-u.ac.jp/~asano/Kougi/04s/BS/>)

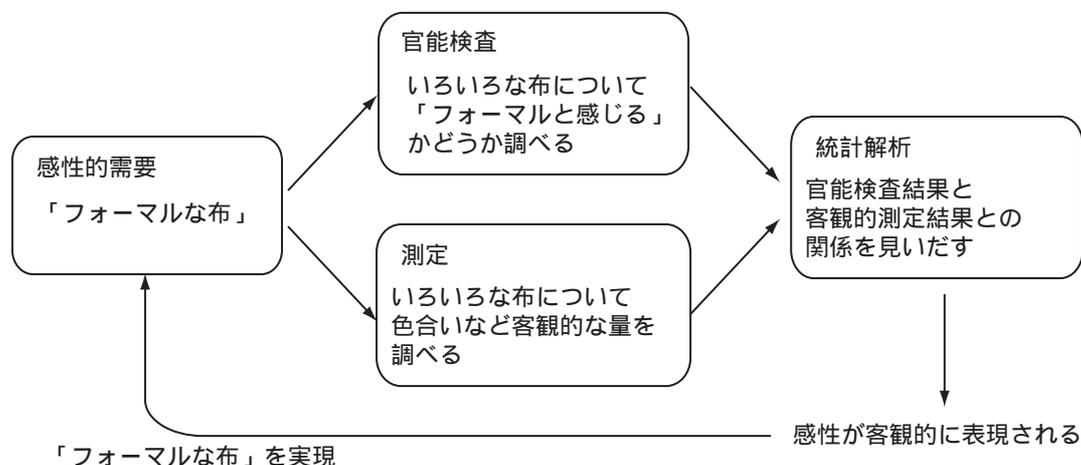


図1. 感性工学の手法